

「Parkinson 病の DaT を用いた黒質-線条体系変性評価とその臨床上の意義
についての検討」

臨床研究へのご協力をお願い

神経変性疾患として比較的多数の症例が存在する Parkinson 病は、末梢および中枢神経系に Lewy 小体が蓄積することにより発症する疾病です。その運動障害を発現する責任病巣は、病理学的に、中脳黒質から線条体へ至るドパミン作動性神経とされています。しかし、その神経系の変性過程は MRI などの画像診断では明確に描出することができません。近年、本邦においても臨床使用が認められた RI 検査の一つである ^{123}I -Ioflupane を用いたドパミントランスポーター-SPECT (DaT scan)検査は、黒質線条体系ドパミン作動性神経終末に存在するドパミントランスポーターに特異的に結合する ^{123}I -Ioflupane を用いた SPECT 検査で、これにより、従来は客観的な評価が困難であった黒質線条体系ドパミン作動性神経の変性・脱落を半定量値として捉えることができます。この指標の診断上、治療上の使用意義を、その他の臨床症例の各種指標と比較検討することより、明らかにすることを目的に、本調査研究を行います。

調査項目は、患者さんの ①年齢、②性、③発症年月、④自覚的臨床症状、⑤他覚的臨床所見（血圧、脈拍、H-Y 重症度、MDS-UPDRS などの評価値）、⑥MRI 画像所見、⑦ RI 検査所見（IMP, MIBG, DaT など）、⑧治療方法（DBS,内服薬の種類と量など）、⑨その他の付随する臨床および検査所見。

本研究は日常診療で得られた臨床データを集計する研究であり、これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は個人情報情報を切り離して、個人が特定されない形で、厳重に取り扱います。皆さんの貴重な臨床データを使用させて頂くことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、またこの研究に関して質問、相談されたい方は、下記の連絡先までご連絡ください。

連絡先：〒465-8620 愛知県名古屋市名東区梅森坂五丁目 101 番地

国立病院機構 東名古屋病院 神経内科

研究責任者 統括診療部長・犬飼 晃

☎ 052-801-1151 (代表)